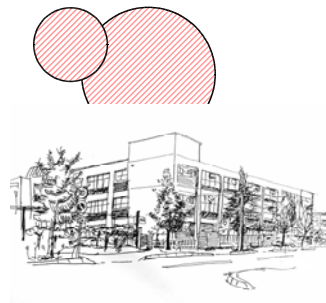


明星中学校だより

知と和と粘り



〒 070-0025 旭川市東5条1丁目

Tel 0166-26-0468

Fax26-0469

E-mail: myojyo@myojyo.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成23年12月20日

◇第12号◇

輝く生徒会活動

募金活動と子ども議会議員

ハンド・イン・ハンド募金活動

生徒と先生213人 買い物公園

12月3日(土)、冷え込みが厳しかったので、予定を繰り上げ12:50~14:00までの活動になりました。参加者は、1・2年生の希望者188名と教職員25名の合計213名でした。宮下通から3条通までの買い物公園において、14班に分かれて募金を行いました。約1時間の活動でしたが、127,599円のお金が集まりました。ユニセフ旭川協会を通して、国連ユニセフへ送金いたします。



生徒会役員が中心となり、「ユニセフハンドインハンド集会」「リーダー研修会」「結団式」「班別ミーティング」の事前指導を入念に繰り返し、当日を迎えました。ユニセフとは何か、ボランティア活動とはどういうことか、募金活動時のマナーとはどのようなことか、不愉快に思われない配慮事項とはどのようなことか等の話し合いを繰り返しました。寒空の戸外で、じっと1時間立っていることのつらさ。笑顔の『お願いします』『ありがとうございました』の声も、知らず知らずこわばります。

「耐性がない」—いまの子どもたちを大人は評価します。むやみやたらに我慢させるのは論外ですが、ある目的のために何かを我慢する力は大人が想像する以上に備わっているのではないかと思います。昨年度は、猛吹雪のため断念しましたが、平成3年12月を初回として、21年の歴史がある本校生徒会の取組でした。



旭川市子ども議会に参加

書記次長

河村 凜紗さん

書記長

松井 和さん

「旭川市の都市像『人が輝く 北の文化のかおる まち』の実現に向け、児童生徒の政治に対する理解と関心を深めるとともに、児童生徒の声を市政に生かすこと」を目的に、旭川市と市教育員会が主催。市内の小学校5年生から中学校3年生のおよそ30名が「子ども議員」として、9/10を皮切りに3回の事前協議会を経て、11/12(土)に本会議が実際の議場にて開催されました。本校から参加した1年生2名の様子を、高綱先生が下記のとおりレポート。

普段、市議会が開かれる本会議場での実施とあって会議前は少し緊張していましたが、本番は実に堂々と市政について質問を行っていました。河村さんは「お年寄りとの交流について」という質問の中で、「もっとお年寄りとの交流を行っていききたい。そして、そうしたいと考える中学生がたくさんいる、という情報をもっと広く発信ができないのか」と自身の意見を交えて述べていました。社教部の部長さんが答弁にあたり、「市の広報誌などを通じて呼びかけを行い、各小中学校にも呼びかけていきます」と答えていました。

松井さんは「障害者の収入について」という質問の中で、「障害者の雇用状態の課題について」述べ、特に事業所での月収が約10,000円という現状と、将来についての心配も含めて訴えていました。福保部の部長さんからの答弁は、「障害基礎年金という制度が整っていることと、全国的な課題でもあり、旭川市でも安心して障害者の方が暮らせる社会を作っていきたい」と答えました。

傍聴席には市議の方も多数参加しており、子ども議会に真剣に耳を傾けていました。

また、休憩時には、2人の立派な質問の態度について、役員の方々からお褒めの言葉をいただくという、一場面もありました。



左：河村さん

右：松井さん

たくさん本を借りた人は?クラスは?

パワーポイントを駆使して、読書の効用をわかりやすく解説したり、クラス対抗クイズ合戦(景品あり)、こりに凝った演劇等で皆を楽しませてくれました。図書室からどのくらいの本が貸し出されているのかを調べ、冊数に応じた表彰も行われました(写真右)。図書委員の皆さんは、連日の「ブリッジ」に参加しながらも、少ない活動時間と下校時の暗さと必死に戦いながら準備してきました。その苦勞のかがあって、今年も本校ならではの特色ある見事な集会活動だったことをお伝えします。

12月9日(金)、5校時に図書専門委員会(専門委員長 金森君(2年1組))が主催して、読書集会が行われました。



■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成23年12月20日

◇第12号◇